

助産学実習 I 妊娠期

I. 目的

妊娠期の助産診断と妊婦へのケアが実践できる能力を養う。

II. 目標

1. 妊娠の成立、妊娠の経過の診断ができる能力を習得できる。
2. 妊娠期を安全に継続維持するための診断ができる能力を習得できる。
3. ハイリスク妊婦のスクリーニングができる能力を習得できる。
4. 妊娠に適応して健やかに経過できるよう、個別的な日常生活の健康管理ができる能力を習得できる。
5. 助産管理の視点を学び、母子保健医療チームの中の助産師の役割について考察できる。

III. 実習施設

国立病院機構岡山医療センター
国立病院機構福山医療センター
国立病院機構高知病院

IV. 単位数および時間数

2 単位 90 時間

V. 教育内容

1. 妊産婦のケア
 - ・健康診査、保健指導、出産準備教育
2. ハイリスク妊産婦のケア

VI. 実習目標・行動目標・実習内容

| 実習目標 | 行動目標 | 実習内容 |
|------------------------------------|---|---|
| 1. 妊娠の成立、妊娠の経過の診断ができる能力を習得できる。 | 1. 妊婦の健康診査ができる。 | 1. 妊娠成立の診断 1) 診断に必要な情報収集 各種診断：基礎体温、最終月経、内診 各種検査、ME 機器 (胎嚢、頭殿長、卵黄嚢、心拍動) など 2) 免疫学的妊娠反応、妊娠成立の診断 3) 予定日の確定、修正 4) 胎児の発育、状態の診断 5) 妊娠経過中のリスク査定 |
| 2. 妊娠期を安全に継続維持するための診断ができる能力を習得できる。 | 1. 妊娠期の助産診断ができる。 1) 母体の経過診断・健康生活診断ができる。 2) 胎児の経過診断ができる。 | 1. 妊娠経過の診断 1) 妊娠経過の診断に必要な情報収集 (1) 分娩 3 要素 ①胎児および付属物の情報：胎児発育と健康状態 ②産道の情報：軟産道・骨産道の状態 ③娩出力：子宮収縮の有無 (2) 全身状態 (3) 各種診察、検査 内診、レオポルド触診法、子宮底長、腹囲測定 NST 検査、ザイツ法、骨盤外計測など 医師の診察結果 (超音波断層法、超音波ドプラ法) X 線骨盤計測 (Martius 法、Guthman 法) 2) 妊娠期の助産診断 (1) 経過診断 ①妊娠の確定、分娩予定日の確定 ②胎児の発育、健康状態 ③母体の生理的変化と適応状態 ④マイナートラブル、異常徴候 (2) 健康生活診断 ①基本的生活行動 ②精神・心理的生活行動 ③社会的生活行動 ④出産育児行動 |
| 3. ハイリスク妊婦のスクリーニングができる能力を習得できる。 | 1. 母体の経過中に予測される異常について、その判断基準、必要なケアについてアセスメントできる。 | 1. ハイリスク妊娠のアセスメント 1) 診断・治療 (1) 妊娠悪阻 (2) 切迫流・早産 (子宮収縮抑制剤など) (3) 多胎妊娠 (4) 子宮内胎児発育遅延 (FGR) (5) 骨盤位 (骨盤位体操、外回転術など) (6) 前置胎盤 (7) 妊娠高血圧症候群 (8) 血液型不適合 (9) 合併症妊娠 (糖代謝異常、甲状腺疾患、子宮筋腫、循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患、アレルギー疾患、精神疾患合併、感染症など) 2) 母体に行われる検査と時期、検査法 妊娠初期：尿中 hCG、妊娠初期検査、感染症 |

| 実習目標 | 行動目標 | 実習内容 |
|---|---|---|
| | <p>2. 胎児について今後予測されるリスクの有無と程度をアセスメントできる。</p> <p>3. ハイリスク妊婦の病態・治療について理解できる。</p> | <p>妊娠中期：頸管長測定、耐糖能評価 妊娠後期：後期血液検査、GBS 培養検査、NST 検査 検査法：超音波断層法、ME 機器、画像診断、検体採取、血液検査など</p> <p>2. 超音波断層法による胎児の検査とリスク査定 妊娠初期：胎嚢の確認、胎児心拍確認 頭殿長測定、胎児スクリーニング (NT 計測) 妊娠中期：胎児スクリーニング (各臓器、羊水量) 妊娠後期：胎児スクリーニング (奇形、発育、羊水量) バイオフィジカルプロファイルスコア (BPS)</p> <p>3. ハイリスク妊婦の妊娠経過、病態生理、治療方針、ケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠中から入院までの経過 2) 入院から現在までの経過 3) 疾患のリスク査定、治療方針と予測される合併症 4) 薬物療法 治療に用いられる薬剤の薬理作用、副作用 薬剤特性、日常生活への影響 5) 予測される異常の観察・ケア計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 早産の可能性、胎児機能不全、 (2) 母体合併症の増悪などの予測 (3) 異常徴候の観察、予防ケア、異常時の対応 (4) リスクに応じた適切な管理、保健指導 6) ハイリスク妊婦の心理・社会面のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 妊娠経過中に異常のある妊婦の心理 (2) ハイリスク妊婦と家族関係 (3) 社会資源の活用 |
| <p>4. 妊娠に適応して健やかに経過できるよう、個別的な日常生活の健康管理ができる能力を習得できる。</p> | <p>1. 妊娠経過に応じた保健指導ができる。</p> | <p>1. 妊婦への保健指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活の援助 2) 妊娠中のマイナートラブルと対処方法 3) 妊娠中の異常症状と対応 4) 異常の予防 5) 母子健康手帳の記録と活用方法 6) 勤労妊婦に対する母性保護と社会資源の紹介 7) 出産前教育 (母親学級・両親教室の紹介) 8) 出産する病院の検討、決定 9) 出産/育児の準備 10) 妊婦の集団指導 母親学級、両親教室など |
| <p>5. 助産管理の視点を学び、母子保健医療チームの中の助産師の役割について考察できる。</p> | <p>1. 場に応じた助産業務と管理について理解できる。</p> | <p>1. 助産業務管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 産婦人科外来における助産業務と管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 助産師外来 マタニティサイクルにある女性への相談・教育活動 (2) プレコンセプションケア 妊娠前の女性への相談・教育活動 (3) 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動 |

| 実習目標 | 行動目標 | 実習内容 |
|------|--|---|
| | <p>2. 母子保健医療チームの中の助産師の役割について考察できる。</p> | <p>思春期、成人期、更年期、老年期</p> <p>2) 医療安全管理体制</p> <p>(1) 人・物・金・情報の管理</p> <p>(2) 外来において発生しやすい事故と防止のための手順</p> <p>3) 感染防止</p> <p>2. 母子保健医療チームの中の助産師の役割</p> <p>1) 病院内における助産師の活動</p> <p>2) 多職種との連携・協働</p> <p>3) 地域との連携</p> |